

目次

写真図版（和田家資料「内留」弘化五年・嘉永元年分全三巻／御案文留）
写真図版（和田家資料「内留」弘化三年・四年・嘉永元年分裏書 上封）
発刊によせて
奥女中の待遇／石川家における御参詣／登場人物の墓所を訪ねて

写真図版・解説 弘化五年・嘉永元年

正月

元日

年始の御祝儀（巻一―2）

2

二日

殿様御上府（巻一―5）

5

七日

七種御祝儀・殿様御下着（巻一―11）

11

十一日

御圖取（巻一―14）

14

十四日

御年越（巻一―18）

18

十五日

上元の御祝儀・三社御参詣（巻一―19）

19

二十八日

御旗祭（巻一―29）

29

二月

十五日

与助草履下げ方（巻二―42）

42

十七日

女中きう不届きに付き、慎み（巻二―43）

43

二十九日

御雛御飾り（巻二―54）

54

三月

三日

上巳の御祝儀（巻二―57）

57

十七日

御館中御安置の観世音御祭礼（巻二―66）

66

十八日

町田恒之助宅へ入らせらる（巻二―67）

67

二十五日

改元の知らせ（巻二―71）

71

二十六日

お従様御誕生日（巻二―71）

71

四月

二日

からくり目鏡御買上げ（巻二―75）

75

八日

虫除け（巻二―77）

77

十四日 御蚊屋御釣初め（巻一―81）
21日 お貞懐胎、着帯の祝儀（巻一―89）
25日 天神宮御祭礼（巻一―93）
28日 殿様御上府（巻一―97）

81
89
93
97

五月

一日

織建て（巻二―2）

103

五日

端午の御祝儀（巻二―7）

108

七日

お従様御産、桑付け（巻二―12）

113

八日

殿様御下着（巻二―12）

113

十一日

御産、引き相成る（巻二―15）

116

六月

一日

氷室御祝儀（巻二―27）

128

四日

南御蔵御普請（巻二―29）

130

十二日

蚕棚卸（巻二―32）

133

二十八日

藻巻（巻二―47）

148

七月

七日

七夕の御祝儀（巻二―52）

153

十一日

幡守明神御祭礼（巻二―54）

155

十二日

越盆の御祝儀（巻二―56）

157

十三日

生身魄の御祝儀・四季施（巻二―57）

158

十五日

中元の御祝儀・松火御覧（巻二―61）

162

二十五日

座頭お孝、参着（巻二―70）

171

八月

一日

八朔の御祝儀（巻二―76）

177

三日

貞力様御誕生日（巻二―78）

179

六日

早魃、御館中井水汲み切る（巻二―83）

184

十五日

明月（巻二―90）

191

二十三日

お貞出産、御男子様御誕生（巻二―99）

200

二十九日

銭太郎様御七夜（巻二―106）

207

九月

六日

御六霊様御法事のお知らせ（巻二―112）

213

十四日

お貞、枕引きの祝儀（巻二―119）

220

十九日

八幡宮御祭礼（巻二―123）

224

二十三日

禿山へ御茸狩り（巻二―13）

228

十月

四日

銭太郎様御風疹（巻三―16）

241

十日

銭太郎様御死去（巻三―19）

244

十三日

覚明院様御出棺（巻三―25）

250

晦日

お貞親、守屋勝治死去のお知らせ（巻三―36）

261

十一月

一日

太師団子（巻三―38）

263

八日

五日夜、玄猪の御祝儀（巻三―42）

267

十五日

御油締め御祝儀（巻三―47）

272

十八日

貞力様御袴着の御祝儀（巻三―48）

273

二十五日

若殿様御誕生日（巻三―49）

274

二十七日

遊行上人参着（巻三―53）

278

十二月

二十七日

元老女幾田死去（巻三―56）

281

一日

遊行上人出立（巻三―61）

286

三日

御内証御備金御預け（巻三―62）

287

十日

お従様・貞力様御上府の御供、仰せ出でらる（巻三―65）

290

十五日

お貞、御家老格の御取扱（巻三―69）

294

十九日

御煤払い（巻三―73）

298

二十三日

御父子様御上府（巻三―78）

303

二十五日

お従様・貞力様御上府（巻三―79）

304

写真図版・解説 御案文留嘉永元年分

暑中御見舞い入記御案文（嘉永元年六月二十二日）

小野御在所宛暑中御見舞い御案文（嘉永元年六月二十七日）

310
311

登米御在所宛暑中御見舞い御礼御案文（嘉永元年七月十五日）
涌谷御在所宛暑中御見舞い御礼御案文（嘉永元年八月六日）
涌谷御在所宛松茸進ぜられ候御文御案文（嘉永元年九月二十四日）
町田恒之助宛和田縫殿右衛門御用状（弘化四年八月二十二日）

313
314
318
320

語句解説

321／人物解説

323／引用参考文献

332

凡例

- 一、本書は、和田家資料「内留」弘化五年・嘉永元年分、御案文留嘉永元年分、町田恒之助宛和田縫殿右衛門御用状を解説したものである。
- 一、和田家資料「内留」弘化五年・嘉永元年分は、全三巻からなり、総丁数は三百八丁。御案文留は、全一巻、四十五丁。全巻ほぼ同じ大きさで縦25・5cm×横16・6cm。全紙縦二つ折り・四つ目綴。
- 一、一部、裏面を再利用したものがある。各巻の丁数は次の通り。
巻一（弘化五年正月元日より四月廿九日迄） 百一丁
巻二（嘉永元年五月朔日より九月十九日迄） 百二十四丁
巻三（嘉永元年九月廿日より十二月廿七日迄） 八十三丁
- 一、御案文留（弘化三年より嘉永二年） 四十五丁（内、嘉永元年分十一丁を解説）
- 一、町田恒之助宛和田縫殿右衛門御用状は、「内留」弘化四年分内に挟まれていた一通の模写で、大きさは縦14・3cm×横36・4cm。
- 一、所蔵は、いずれも角田市郷土資料館である。
- 一、文書の解説は、上段（写真図版・中段（翻刻、読み下し）・下段（語句解説）で構成した。下段（語句解説）で、項目のみ記載されているものは、調査中のものである。
- 一、読み易くするため、適宜説点・並列点を加えた。台頭・平出・欠字は、原文に合わせた。
- 一、翻刻は、出来るだけ原文で使用されている字体を用いた。読み下しは、常用の字体、仮名づかいを用いた。
- 一、助詞の「に（二）」は（者・盤）、「へ（江）」、「て（而）」と「并」は、小さい文字にした。
- 一、漢字の繰り返し記号「〃」は「同」、「占」は「より」、変体仮名は、常用の仮名を用いた。
- 一、本文の行間に書き加えられた文字は、本文に組み込んだ。本文余白に追記された部分は、「余白（上）」「余白（下）」などと記し、条や頁の終わりに記した。
- 一、文意の通じない文字や間違っている文字には（ママ）、疑問の箇所には（カ）と記した。
- 一、付け加えた方が文章が整うと思われる語句については、括弧書きにして付け加えた。
- 一、判読できなかった文字や欠損部分は、字数が明確な場合、文字数分の□や影印で、不明な場合は、
と記した。文字が推定される場合は、□の中に文字を記した。
- 一、
は、筆者が文字を見せ消し（もとの文字が読めるように訂正した消し方）にしたことを表す。
重ね書きで訂正された文字は、後に書かれた文字で判読した。
- 一、解説では、年齢を数え年で表した。
- 一、年間を通して主な出来事を目次としてまとめた。
- 一、主な語句解説・人物解説・引用参考文献は、巻末にまとめて記載した。
- 一、本書の執筆・編集は、角田市郷土資料館館長新庄屋元晴・調査員逢田義廣・調査員氏家若子が担当した。